《第１５７号》　2010年５月創刊　　１２月３日発行　2023年12月号

姫路顕栄教会

# エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町 4-36
編集責任者　牧師・司祭　ミカエル小南　晃

## 祝クリスマス

**言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。（ヨハネによる福音書第１章14節）**

神の子、救い主キリストのご降誕と言えば馬小屋での誕生、また羊飼いや星に導かれた東の博士たちの訪問の物語を思い浮かべます。

しかしヨハネによる福音書にはそうした物語は登場しません。但し、その１章１節以下には、神の子キリストが世に来られたことの意味が語られています。

冒頭の聖句に「言（ことば）」とあるのは、世の初めから神と共にあり、神であられたキリストのことです。そして「肉」とは人間のことです。私たちは「ことば」で思いや考えを人に伝えると共に、それらを「ことば」でまず自分自身の心に抱いています。キリストが神の「言（ことば）」であると語られる時、キリストは神のみ旨、ご意志の現われであり、神のみ心そのものと言えるでしょう。

私たちの言葉について思い巡らした時、そこには温かい言葉があり、冷たい言葉があり、それによって慰められ、励まされ、あるいは傷つき、苦しめられもします。言葉とはそれが人間の言葉であっても、人を生かしもし、時には人を滅ぼしもするのです。まして「神の言（ことば）」にはどれほどの力があることでしょう。

またここでは人間のことを、あえて「肉」と呼ぶ、幾分衝撃的な表現には、人間の限界や弱さがそこに込められています。そして神ご自身である「言（ことば）」が、あえて人間の弱さを担われたところに神の大きな自己犠牲があり、そこに人間に対する神の深い愛が現れているのです

今年はようやくコロナ禍から脱しつつあり、それは喜ぶべきことですが、その一方で世界を見回す時、間もなく２年になるロシアのウクライナ侵攻による戦争、そして今年10月に始まったパレスチナ・ガザ地区とイスラエルの激しい戦闘、またトルコ・シリアの震災などの自然災害による多くの犠牲者、そして悲しみ、傷つき、苦しむ人々が数多くおられます。

このクリスマスの時にあたり、その人々のもとに、またすべての人々に力ある「神の言（ことば）」が届いて、命と希望が与えられますように、そして私たち一人ひとりも小さくはあっても愛の言葉として慰めと励ましを人々の心に届けていくことができますように、この時にともに祈りを捧げましょう。

### クリスマス礼拝のご案内

**１２月２４日（日）**

◎ 18：00 クリスマス・イブ礼拝(夕の礼拝)
　※聖歌と聖書朗読、お話の礼拝です。
◎ 礼拝後：クリスマス・ティーパーティー
◎ 20：00　降誕日第１聖餐式

**１２月２５日（月）**

◎ 10：30　降誕日聖餐式（主礼拝）
◎ 礼拝後：クリスマス愛餐会

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

クリスマス礼拝案内とクリスマス献金袋を配布させて頂きます。クリスマスの礼拝には、どうぞお誘い合わせてご参列ください。またクリスマス献金をよろしくお願いします。